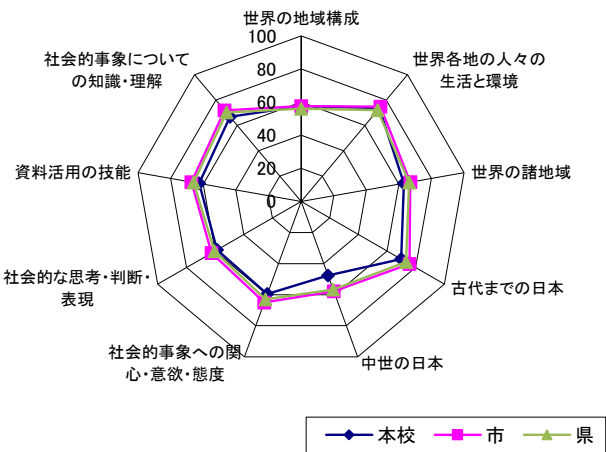


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	57.6	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	73.5	74.6	71.9
	世界の諸地域	63.1	67.0	66.3
	古代までの日本	69.8	75.7	73.3
	中世の日本	47.7	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	59.6	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	58.5	62.5	60.5
	資料活用・技能	62.5	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	66.7	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○領域別正答率が県平均から1.6ポイント上回り、市平均と同じポイントであった。 ○問題別では、世界の地域区分の問題では正答率が県平均、市平均とともに上回った。	・地理についての基礎・基本的な知識が身につけている生徒が多い。本年度の学習においても小テストを定期的に行うなど、基礎・基本を重点に置いて確実な知識の定着を図りたい。
世界各地の人々の生活と環境	○領域別正答率が県平均から1.6ポイント上回った。 ○問題別に見ると、雨温図をもとに世界の気候帯について判断する問題では、正答率が県平均、市平均とともに5.0ポイント以上上回った。 ●領域別正答率が県平均では上回っているが、市平均と比較すると、1.1ポイント下回っている。	・雨温図の読解が十分できている生徒が多い。2年生で学習する日本の諸地域でも引き続き雨温図から地域の様子を考察できるようにしていきたい。 ・雨温図以外の他の図やグラフでも、考察・読解ができるよう授業でも指導していく。
世界の諸地域	●領域別正答率が県平均から3.2ポイント、市平均から3.9ポイントとともに下回っている。 ●問題別では、資料をもとに判断・考察する問題で正答率が県平均を5.0ポイント以上下回っている。	・資料をもとに判断・考察することを苦手とする生徒が多いので、授業でもより多くの資料を取り入れ、多様な資料を読解する力を身につけさせる。 ・また、資料から読み取ったことを発表する機会を増やし、自分の考えをたことを表現する力を高める。
古代までの日本	○問題別に見ると、正答率が県平均と同程度である。 ●領域別正答率が県平均から3.5ポイント、市平均から5.9ポイントとともに下回っている。	・県平均で正答率の高い問題、つまりほとんどの中学生が正答できる問題に正答できない生徒が見られるので、小テスト等を繰り返し、基礎・基本的な知識が確実に定着できるようにする。
中世の日本	●領域別正答率が県平均から9.0ポイント、市平均から10.2ポイントとともに大きく下回っている。 ●とくに、問題別では時代区分について、中世の諸産業について、室町時代における東アジアとの交流について、これら三つの問題において正答率が県平均、市平均とともに5.0ポイント以上下回っている。	・時代区分については、歴史を学習する上で不可欠な事項であるので、すべての生徒が理解できるよう、繰り返し授業で触れるようにする。 ・産業史や交流史は中学生にとって、把握しにくいところであるので、政治や経済とのつながりを意識させながら、知識の定着を図る。